中学・高校音楽通信　2010年 秋号

音楽のおくりもの Information

Spire_M

中学・高校版
通巻第20号

音楽の楽しさと感動を伝える～高校生オーケストラの取り組み
福岡市立福岡西陵高等学校　松田 和宏

学習指導案
言語活動を充実させる鑑賞授業の工夫
愛知県稲沢市立稲沢中学校　長橋 正幸

管弦楽における管楽器・打楽器の魅力　―「展覧会の絵」に登場する楽器たち
青森県八戸市立中沢中学校　最上 哲宏

教育出版

HIGH SCHOOL ORCHESTRA

音楽の楽しさと感動を伝える

～高校生オーケストラの取り組み

福岡市立福岡西陵高等学校　松田 和宏

「ひとりでも多くの生徒に音楽の楽しさや素晴らしさを伝えたい。音楽を好きになって欲しい。」
音楽教師になったときの気持ちでした。
その為には，教師自らが音楽の楽しさや素晴らしさを知っていること，生徒と共に音楽と正面から向き合うこと，
そして何より音楽への情熱を持ち続けることが必要ではないでしょうか。
ここでは，本校（福岡市立福岡西陵高等学校）に赴任してから今日まで
12 年間の高校生オーケストラとのあゆみの一部を紹介させて頂きます。
日頃先生方が音楽の授業や，吹奏楽，合唱指導など，音楽を介して生徒と向き合っていかれる際に，
何かの参考にでもなれば幸いに思います。

高校生オーケストラとの出会い，そして取り組みの第１歩

平成 11 年，14 年間の中学校音楽教員経験を経て福岡市立福岡西陵高等学校へ赴任した。

入学式で初めて本校管弦楽部の演奏を聴いた。演奏が難しい弦楽器を用いる管弦楽は高校生の部活動程度では不可能ではないのか？と信じていたため，「高校生にも管弦楽ができるんだ，よく頑張っているな」と素直に驚いた。しかしお世辞にも「うまい」と拍手を送るまでではなかった。

当時の管弦楽部の学校外での演奏は年１回の定期演奏会だけであることを知り，「せっかくのオーケストラ，取り組み方次第ではもっと多くの人に音楽の喜びや感動を伝えることができるのではないか。」と考え管弦楽部の顧問になった。

能力も高く，真面目に自主的によく練習する割になぜ学校外での演奏ができないのか。答えはそれだけの演奏技術が個々人に備わっていないからであった。その原因のひとつにエキストラに頼りすぎるていることが考えられた。当時の定期演奏会では 50 名弱の部員に対し，延べ 60 名近いエキストラが参加していた。楽器を持って１，２年の高校生オーケストラでは大勢のエキストラが必要だったのである。しかし，問題は生徒が自身で何とかしようと努力する前にエキストラに頼ってしまう安易な気持ち（心）を無意識に持っていた点だ。例え

ば吹奏楽の場合，コンクールでは演奏者が不足していてもエキストラに頼ることはできない。今いる部員（戦力）で努力し解決するしか方法はないのである。その何とかしなければという気持ち（心）が技術の伸張を図っているのだ。本校管弦楽部には，その何とかしなければという気持ちが不足していた。そして自分たちだけでは演奏ができないと思い込んでいたのだ。平成 12 年 9 月から全面的に管弦楽部の指導を任された。そこで，学校外での演奏を行うためにまずは演奏技術の向上が絶対であると考え，翌年の定期演奏会はエキストラ無しで実施すること決めた。エキストラ無しと聞き多くの部員が辞めていった。

まずは演奏技術の向上を

演奏技術の向上には練習しかなかった。練習を持続させるためには，練習の目標を明確に持たせることが不可欠であった。そこで高文連器楽・管弦楽部門の大会を目標として掲げた。県大会で「最優秀賞」を取れば全国大会に単独出場できるのである。吹奏楽指導の経験からコンクールには生徒は一生懸命になると考えた。結果は，運良く地区大会を突破し，県大会で「最優秀賞」を受賞。全国大会の単独出場権を獲得した。生徒は，「やった！やった！」と口々に叫んでいた。本当に嬉しかったのであろう。しかし県代表というと聞こえはいいが，当時，福岡県の高文連の器楽・管弦楽部門は出場団体も少なく，演奏技術よりもひとりでも多くの高校生に全国大会の経験をさせることが目的であったため，演奏技術はさほど問題にしていない大会であった。

対外的な演奏活動へ

生徒は，高文連県大会「最優秀賞」で自分たちの取り組みに多少の自信と，僅かではあるが顧問に対する信頼をもつようになった。しかし,「全国大会出場」の文字に，自分たちは「うまいんだ」と錯覚を持つ生徒も現れ，大会後練習態度にゆるみが見えだした。そこで，新たな練習の目標を持たせるためにも対外的な演奏場面を設定することが急務となった。とは言っても，今まで外部の演奏を実施していないこともあり，実力も知名度もなく，簡単に演奏場面は見つからなかった。近隣の公民館や知り合いの小・中学校に頭を下げて回り，なんとか 4 つの対外的な演奏が実現した。その中でも当時吹奏楽コンクール全国大会 3 年連続出場を果たした,県立城南高校吹奏楽部さんとのジョイントコンサートは本校管弦楽部の転機となった重要な演奏であった。

管弦楽と吹奏楽 ハーモニー楽しんで

福岡西陵高と城南高

21日、合同コンサート

▲演奏会の開催を取り上げて頂いた新聞記事

同世代の真剣さに触れて

城南高校吹奏楽部は当時吹奏楽コンクールで三年連続全国大会に出場していた県内トップレベルの吹奏楽団であった。そこには，高い個々人の演奏技術と，厳しい規律，そしてそれを支える音楽に対する情熱が存在していた。今まで，対外的な活動を避け，演奏もエキストラに

頼って実現できた本校の管弦楽部とは本質的に違っていた。当時の管弦楽部には，オーケストラであるというだけで，妙なプライドが部員に存在していた。その根拠の無いプライドこそが管弦楽部の発展を妨げていた。

城南高校吹奏楽部の足元にも及ばないレベルの低い本校管弦楽部とジョイントして頂くため，何度も城南高校に足を運んだ。その結果，顧問の先生の快諾によってコンサートが行われることになった。しかし一歩間違えば，演奏技術の差を露呈し，やっと育ち始めた生徒のやる気を無くすことも危惧された。いわゆる一種のかけであった。演奏会は平成 13 年 3 月 27 日，福岡市内の 800 席あるホールで開催した。 プログラムはお互いの単独ステージと合同ステージで構成した。会場は満席となり，観客からは「吹奏楽と管弦楽の二つのよさや楽しさを同時に味わうことができた。また，合同ステージの迫力は凄かった。是非来年も」という声が多く，大盛況のうちに終えることが出来た。

この演奏会で，生徒は自分たちの演奏技術の未熟さと音楽に対する甘さを痛感した。しかし，演奏後の生徒の表情は決して卑屈な暗いものではなかった。それよりも，多くのものを学んだこと，身近に目標とする学校が出来たこと。そして何より，全国レベルの吹奏楽団と対等にステージで演奏し終えたことの満足感で溢れていた。この演奏会こそ福岡西陵高校管弦楽部の転機をもたらした貴重な演奏会であった。

この演奏から生徒の管弦楽部活動に対する姿勢が大きく変わった。練習を遅刻・欠席する部員が少なくなり，練習に熱が入ってきた。人に見られることにより，そして自分たちと同世代の頑張りを肌で感じることにより，生徒の心の中で何かが変わってきたのである。

高校生だけでのオーケストラ演奏

平成 13 年，この年の定期演奏会は，初のエキストラ無しの誰にも頼れない定期演奏会であった。 場所は，前年までの 1，200 席収容のホールから，会場費が安い 800 席のホールに縮小して行った。理由は，前年までは集客が約 800 人前後であり，また，多くのエキストラの謝礼等のため赤字がでていたからである。曲目も当時の本校管弦楽部だけで何とか演奏できる技術的に比較的平易な「カルメン組曲」と，折角お越し頂く観客に，本物の演奏を聴いて頂こうとプロの演奏家をゲストに迎え，ラフマニノフのピアノ協奏曲 2 番を選んだ。

高校生の管弦楽

△平成 14 年の定期演奏会に関する新聞記事より

誰にも頼れない演奏会であるため，演奏会 2 ヶ月前から部員総出でチケット販売に奔走した。販売先として部員は主に出身中学校に出向いた。そんな 6 月の放課後，ひとりの部員が涙を流しながら私に駆け寄ってきた。話を聞いてみると，この生徒は出身中学校の吹奏楽部顧問にチケットを持っていたところ，「お前の学校の演奏聴いたら耳が腐る。中学生に聴かせられん。」と言われチケットを受け取ってもらえなかったのだという。よほど悔しかったのであろう，生徒は話し終わった後もしばらく涙がとまらず，手にはくしゃくしゃに

なったチケットをしっかりと握りしめていた。「いつの日かその先生がチケット買って演奏を聴きに来てくれるような管弦楽部になればいい」自分に言い聞かせるように生徒をなだめた。演奏会は昨年まで観客の多くが管弦楽部のOBや身内であったのに対し，高校生や中学生，小学生などこの一年に一緒に演奏したり，交流した関係者が増えた。さらに全く学校と関係の無い一般市民の方が増え，観客数も930名と増えた。演奏会後，自分たちの力で実現させた演奏会への満足そうな部員たちの笑顔が印象的だった。この年の定期演奏会で自信を持ち，平成14年からは，オーケストラ専用ホールである福岡シンフォニーホールで定期演奏会を実施できるようになり，現在では1，800席が前売りで満席となるまでになっている。

校内での オーケストラのアピール

△平成21年の定期演奏会でのベートーベン「第9」

平成13年，この年は本校創立25周年の節目の年でもあった。当時，1，2年生が音楽を選択できたこともあり音楽の授業で合唱を取り組み，オーケストラの伴奏で合唱ができないものかと考えた。結果，音楽選択生徒300名の合唱でオーケストラ伴奏の，ヘンデル作曲「メサイア」より「ハレルヤ」，と佐藤眞作曲カンタータ「土の歌」より「大地讃頌」を創立記念日の式典で演奏した。この演奏が好評で，翌年の平成14年は，カール・オルフ作曲「カルミナ･ブラーナ」より『踊らんかな』，『海からライン川まで』『ようこそ最も美しい人』『おお運命の女神よ』に挑戦し，中学生対象の本校オープンスクールで演奏した。

この取り組みが管弦楽部と音楽科の存在意義を学校や教育委員会そして他の職員に認めて頂く結果となった。また，この合唱の取り組みの成功が，平成17年の本校創立30周年記念式典での市民400名との大合唱の演奏へと発展し，さらに，平成21年夏の定期演奏会でのベートーベン交響曲第9番「合唱付き」の実現へと発展した。

オーケストラまるわかりコンサート
〈より多くの方に高校生オーケストラを〉

中・高校生にとっては吹奏楽が音楽活動の主流。従って，年1回の定期演奏会でさえ中・高校生の姿を見ることは少ない。「同世代の仲間に僕等のオーケストラを知って頂きたい」という部員の願いから，中・高校生が聴きに来たいと思うようなオーケストラの演奏会を企画した。それが平成18年から現在も継続開催している「オーケストラまるわかりコンサート」だった。部員が提案してきた企画のコンセプトは，「クラシックにこだわらない，五感で楽しませる，そして自分たちも楽しむコンサート」だった。

第1回目のコンサートでは，企画の目玉として（財）アクロス福岡主催のコンサートである「青少年のための一万人コンサート」でお世話になった指揮者曽我大介氏に指揮のお願いをすることにした。曽我氏は快く引き受けてくれた。入場料は無料にし，吹奏楽部の中学生には楽器持参で鑑賞に来てもらい，最後

に，ステージ上の本校管弦楽部と共に氏の指揮で客席から演奏してもらうという企画を組んだ。その他の演奏曲目も，映画音楽やポピュラー音楽などクラシック音楽に接していない方も聴きやすい曲目を選曲した。さらに映画のヒットで話題となっていた「オペラ座の怪人」を，演奏だけではなく，私が怪人役に，生徒が出演者の役になり，曽我氏の指揮で歌うなど演出にも凝った。演奏会には，約 200 名ほどの中学生の吹奏楽部員が楽器を持って訪れた。会場は立ち見がでるほど盛会で，最後に曽我氏の指揮でラデッキー行進曲をステージと客席一体となって演奏した。

第 2 回目の「オーケストラまるわかりコンサート」は，クラシック音楽を軽妙な笑いで描き TV ドラマでも大ヒットした，漫画「のだめカンタービレ」に使われているクラシックの名曲を集め，「カンタービレコンサート」と題して行った。夏合宿に参加して頂いている「ゴールドカルテット」のみなさんやヴァイオリニスト，岡田鉄平氏，それに岡田鉄平氏とデュオを組んでいる「杉ちゃんと鉄平」そして，ピアニストに馬越悟氏という若手の演奏家をお迎えして，クラシック音楽を気楽に聴いて頂いた。また，演出として私や生徒が「のだめカンタービレ」の登場人物に変装して寸劇を行ったり，演奏したりし，大いに盛り上がり，楽しいコンサートとなった。

第 5 回目となる今年は，ゲストに，大分県津久見市の「樫の実少年少女合唱団」さんと，オペラ歌手の林麻耶さん，小牧達彦さんのご協力の下，ミュージカル「サウンドオブミュージック」を「音楽の絵本」と題して，生徒が書いた絵を大スクリーンに投影し，そして，ミュージカル仕立てで演奏した。演奏後，「ブラボー」の大歓声と拍手が沸き起こったことは言うまでもなく，この演奏会が日頃オーケストラに興味のない市民や中・高校生に定着してきたことが実感できた。（※ YouTube でこの演奏をご覧になれます）

毎日新聞
小学生にコンサート
楽器体験もアニメ曲など演奏

△ 小学生のためのコンサートを取材して頂いた新聞記事

小学生のための コンサート

中・高校生を対象に企画したオーケストラまるわかりコンサートであったが，聴きに来てくれる生徒は吹奏楽部員がその大半であった。他の生徒は音楽に興味がないこともあるが，運動部等の練習や試合が重なり，聴きに来られない現状があった。そこで，部活動のない小学生対象のコンサートを考えた。早い段階でオーケストラに触れてもらうことがオーケストラを好きになってもらうためには必要であると考えたからだ。それが平成 20 年から実施した「小学生のためのオーケストラコンサート」だ。演奏会は小学生の鑑賞限界時間を考え，30 分の 3 部構成にした。まず，1 部でオーケストラの楽器を知ってもらうため，各楽器の簡単な説明と，聞き覚えのある曲（アニメやＣＭで使われているクラシック等）を演奏する楽器紹

介コンサート，２部は，休憩も兼ね各楽器ごとのブースを設けて自由に楽器に触れてもらう楽器体験。そして，３部では小学校の教科書で取り上げられていた曲，聴きやすい曲に映像や寸劇を駆使したオーケストラコンサートである。楽器に少しでも触れれば，子供達はオーケストラ演奏に興味を持って聴いてくれると考えたのである。また，当日聴きに来た子供達の中から希望者を募り，３ヶ月の期間限定で，初心者対象の計６回のヴァイオリンセミナーを企画した。

セミナーで使うヴァイオリンはすべて準備して貸し出した。貸し出しの楽器の都合上 10 名程度を予定していたが，募集と同時に 24 名の子供達がセミナーを希望したため，知り合いや懇意にしている楽器店から便宜をはかって頂きなんとか楽器を調達できた。指導は，本校管弦楽部 OB のヴァイオリニストにボランティアでお願いし，毎回本校管弦楽部のヴァイオリンパート部員が 10 名補助指導にあたった。６回のセミナーでは「きらきら星」がきちんと弾けるような計画を立て，セミナーまとめとして，前述の「オーケストラまるわかりコンサート」でオーケストラ伴奏用に特別に編曲した「きらきら星」を満員のお客様の前で，オーケストラと一緒に披露演奏をした。演奏終了後の満足そうな子供達の笑顔が印象的だった。このセミナーを切っ掛けに本格的にヴァイオリンを習い始めた子供が数名でたことは嬉しい限りであった。また，この演奏会は予想以上に好評で第２回目となった今年（平成22年）も小学生とその保護者で800席のホールは立ち見がでるほどに盛会となった。

まとめ

当初頭を下げてやっと年４回ほどしか実施できなかった対外的な演奏も，現在では，年間 30 回ほどに増えた。その中には，秋篠宮殿下の前での演奏や，人気グループ「スマップ」や「HY」との共演，プロのオーケストラである九州交響楽団さんとの共演，カナダでの海外公演，そして今回で２回目の開催となった，九州・山口の高校生オーケストラが一堂に会した，「九州・山口高等学校オーケストラフェスタ」（来年の第３回目は選抜オーケストラの指揮者にチョン・ミョンフン氏をお迎えすることが決まっている）の実現など，当時は想像さえできないような演奏場面を提供して頂くようになった。また，ヴァイオリニスト，アナスタシア＝チェボタリョーワさんやピアニスト，クシシトフ・ヤブウォンスキー氏，杉谷昭子さん等のトップアーティストとの共演など幸運な機会にも恵まれた。また，夏の定期演奏会には市長をはじめ，教育長もお見えになるほどだ。しかし，それらを実現させてきたのは，「ひとりでも多くの方々にオーケストラのよさや感動を知って頂きたい」との思いで日々懸命に音楽と向き合っているごく普通の高校生達なのだ。現在部員は，約 130 名，全校生徒 960 名の本校では最も部員の多い部活動となっている。情熱と努力こそが，音楽の輪を広げ，音楽の存在意義を認めて頂ける最良の方法だと信じて，今後も生徒と共に汗を流していきたいと思っている。

言語活動を充実させる鑑賞授業の工夫

愛知県稲沢市立稲沢中学校　長橋　正幸

１●はじめに

平成 20 年 3 月に告示された新学習指導要領では，授業の改善目標として音楽を形づくっている様々な要素を知覚し，それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感受し，音楽に関する言葉を用いながら「言葉で説明する」「根拠をもって批評する」という言語活動を取り入れることが示された。音楽は，人により感じ方がそれぞれ違う。また，それらの感じ方に間違いがあるわけではない。自分の思いや意図を言葉に表わし，根拠をもった話し合いなど，互いに意見を共有しあう活動を取り入れることで，より広い視野で多面的に音楽をとらえて聴くことができるようになるのではないかと考え，授業実践を行った。

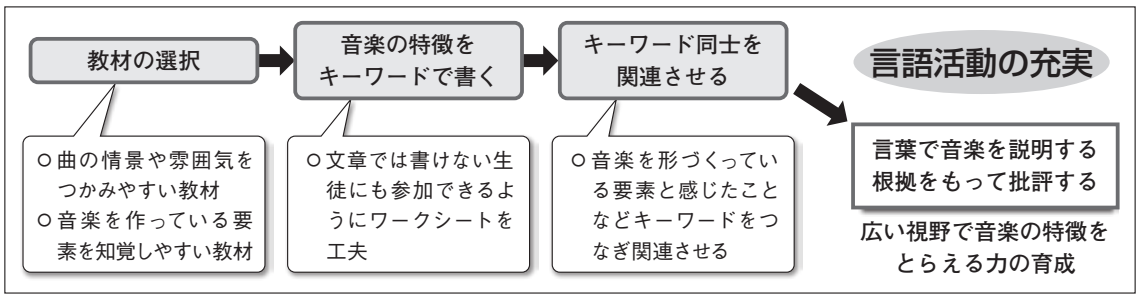
２●授業実践例①

(1) 題材 「イメージしよう」 シューベルト作曲　歌曲「魔王」（１年生４月）

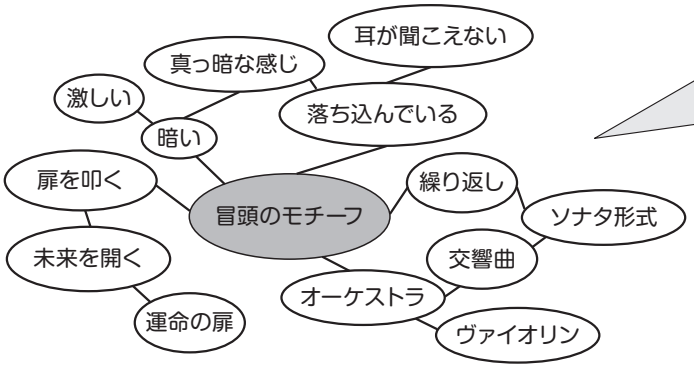
(2) 題材観・指導観

「魔王」は，中学生に人気の高い歌曲である。中学校に入学して初めての鑑賞の授業にふさわしい，音楽を構成する要素がシンプルでわかりやすい作品である。「魔王」を言葉で説明するためには，スモールステップで考えやすく，書きやすいワークシートの工夫をした。下記のような流れ（図①）で言語活動の充実をはかることを目標とし，ウェビングを応用した「イメージマップ（図②）」を用いて授業を行った。

図①



図②　ベートーヴェン作曲「交響曲 第五番」でイメージマップを作った例



この例では，冒頭のモチーフをスタートのキーワードとして作成している。また，予備知識も入っているが，曲についての知識を与えても，与えなくても作成はできる。

ウェビングのように，連想によってマップを拡げていくのではなく，「暗い」から「真っ暗」というように，「様々な暗さ」の中で，どのような暗さだろうかと考えるなど，音楽からより深くイメージさせられるとよい。

(3) 指導目標

歌詞の内容を把握し，音楽から感じ取れるイメージと歌詞の内容を結びつけて作曲していることを感じ取らせる。

(4) 指導の実際

段階	学　習　活　動	指導上の留意点・評価
つかむ	1　曲を聴いていちばん印象に残った歌詞を発表する。 ・お父さん，お父さん ・風の夜に ・坊や	○ 聴くことに集中させるために，いちばん印象に残った歌詞をワークシートに書かせる。 ○ 発表時に，いちばん印象に残った言葉を選んだ理由をたずねる。 ○ 一つも聴き取れなかった生徒には，発表された言葉の中から選ばせる。
深める	2　イメージマップを作成する。 ・激しい→ピアノの連打→馬 ・暗い→お父さん，お父さん→泣き叫ぶ ・怪しい→魔王→魔王の娘→きれいなおべべ ・弱々しい歌い方→坊やが亡くなる	○ イメージマップの作り方を，例を使って説明する。 ○ 日本語版の「魔王」を聴き，イメージマップを作成させる。 ○ 曲の雰囲気などイメージだけでなく，歌詞をイメージマップに入れてよいことを伝える。 〔評価〕 多くのキーワードを書き、分岐が多岐にわたったイメージマップを作成している。
	3　イメージマップをもとに登場人物や歌詞の内容を把握する。 **【補助発問】** 「登場人物は何人いて，それぞれ誰だろう？」 「どのような物語なのだろう？」 「父と子は何をしているのだろう？」 「魔王は本当にいたのだろうか？」	○ 登場人物や話した言葉など，歌詞の内容を発表させ，そのキーワードにつなげた音楽を形づくっている要素を合わせて答えさせる。 ○ 一度で物語の内容が把握できなかった箇所は，二回目に聴いたときに確認するよう伝える。 ○ 聴き取れたが意味の分からなかった言葉については，解説をする。 ○ 物語が象徴的に描かれていることに触れ，作詞者のゲーテについても解説を加える。 〔評価〕 イメージマップをもとに自分の意見をもち，すすんで発表している。
まとめる	4　歌詞の内容や楽譜を確認する。	○ 自分の聴きとったものと歌詞を比較させる。 ○ 楽譜を見て，とらえた雰囲気との比較から気づいたことを話し合う。

(5) 考察

初めて聴くドイツリートに喜び，楽しそうな様子で曲を聴いていた。いちばん印象に残った言葉では，「お父さん」や「魔王」など，子どもが話した言葉が多く出された。中には，古典的な日本語に興味を示し，難しい言葉を選ぶ生徒もいた。

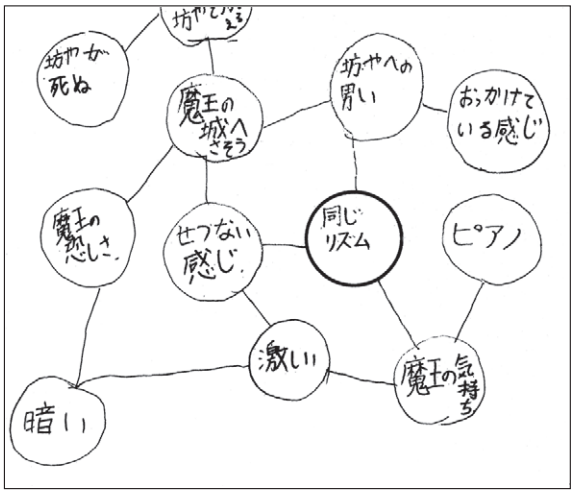
イメージマップの作成は，初めての活動であったが，ベートーヴェン作曲「交響曲 第五番」を例に挙げ，作成の仕方を指導した上で活動させたため，ほぼ全員がスムーズに取り組んでいた。しかし，歌詞の内容が非常に魅力的なため，歌詞を追うことだけに一生懸命になってしまい，音楽的な要素と結びつけて書けない生徒もいた。

生徒には，曲や作曲者についての予備知識や先入観を与えず聴かせた。イメージマップを活用するこ

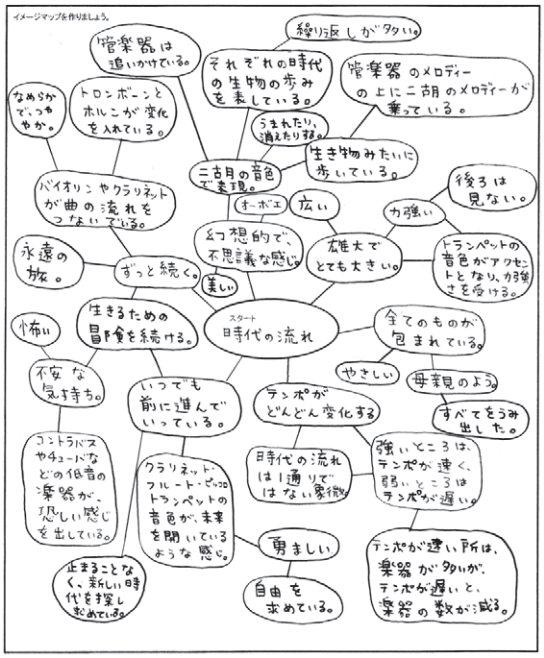
とによって，生徒は想像のみで完成させないといけないため，曲に対してとても集中している様子が見られた。図③のイメージマップでは，「激しい→暗い」とつながっており，曲全体の雰囲気が一目でわかるよう整理されている。また，「暗い→魔王の恐ろしさ」の箇所は，歌詞の内容と音楽の特徴がつながっている。

図④は，３年間同様に実践をつんだ３年生の生徒が作成したイメージマップである。曲は「魔王」でなく，オーケストラの作品であるが，実に多岐に分岐し，それぞれのキーワードから音楽的な特徴をしっかりととらえていることがわかる。しかし，一人一人のイメージマップを分析し評価していくのは，鑑賞する曲によって基準が異なるため，評価の方法については研究していく必要がある。

図③　１年生の生徒が「魔王」で作ったイメージマップ



図④　同様な実践を３年間継続してきた３年生の生徒のイメージマップ



３●授業実践例②

(1) 題　材　　メリーポピンズより「スーパーカリフラジリスティックエクスピアリドーシャス（以下スーパー）」（１年生５月）

(2) 題材観・指導観

本教材は，歌唱教材として教科書に載っており，生徒にとってなじみのある曲である。本授業では，「スーパー」の異なるアレンジ（図⑤）を 13 種類用意する。同じメロディーであっても，楽器やリズムなどの音楽的な要素が，曲の全体の雰囲気に大きく影響していることに気づかせたいと考えた。

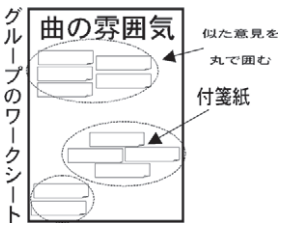
(3) 指導目標

音楽的な要素が，曲の雰囲気などに大きな影響を与えていることを感じ取らせる。

図⑤

用意したアレンジの一部
①ボサノヴァアレンジ
②ピアノのみのアレンジ
③オーケストラアレンジ
④ユーロビートアレンジ
⑤童謡風アレンジ

(4) 指導の実際

段階	学　習　活　動	指導上の留意点・評価
つかむ 深める	1　曲を聴いて，3つの項目で音楽の特徴を考える。 ① 曲の雰囲気 ・明るい，暗い　・楽しい，悲しい ② 音色・楽器 ・オーケストラ　・ピアノ，クラリネット ③ 場所（曲のかかっていそうな） ・誰もいない公園　・おしゃれな喫茶店	○ それぞれの班にCDデッキとCDを配布する。 ○ グループで，13曲の中から1曲を選択させる。 ○ 一人一人にワークシートを用意し，まずは自分の意見をもたせる。 ○ 3つの項目で，自分の書きやすい項目から書かせる。 〔評価〕 音楽的な要素の言葉を用いて，3つの項目それぞれに特徴を書いている。
まとめる	2　グループで意見をまとめ，曲の特徴を発表する。 	○ 各グループに3項目それぞれ1枚ずつのワークシートを配布し，KJ法を用いてグループのメンバーの意見を分類する。 ○ ワークシートへの分類は付箋紙を使い，似ている意見を丸で囲ませる。 ○ 1番多くの班員が納得できる意見を決め，発表させる。 〔評価〕 積極的に話し合い活動に参加し，自分の意見をすすんで述べている。

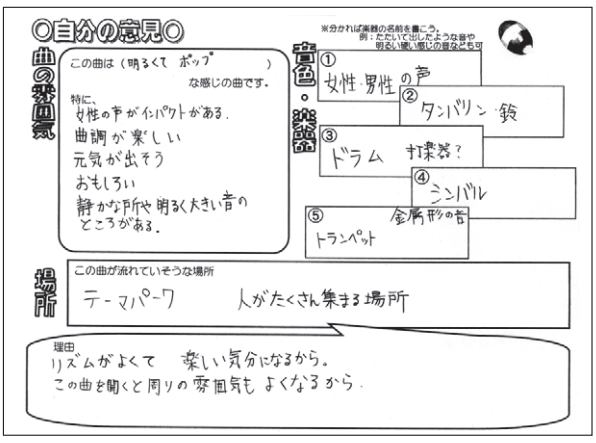
(5) 考察

複数のアレンジを用意したことは，生徒がメロディーや歌詞に着目するのでなく，音楽の特徴のみに着目させることができるため，有効な手立てであった。しかし，より深く音楽の特徴をつかませるためには，楽器の名前や演奏の仕方，構造などを学習したり，リズム効果を学習したりする場面を設定する必要がある。

3枚のグループ用ワークシートを用意し，3つの観点においてそれぞれ分類させたことで，根拠をもった，より焦点化された話し合いをしていた。さらに学習効果を高めるためには，グループ相互に質問させ，他のグループから得た意見を参考にする場面を設定する必要がある。しかし，ＫＪ法を用いることは，多人数の意見に偏ってしまうため，少数の意見へ目を向けるよう指導する必要がある。

曲の雰囲気，音色・楽器，流れていそうな場所と3つの観点を示したことで，次々にワークシートをうめていく様子が見られた。（資料⑥）しかし，楽器については，「金属系の音」など，楽器名で書けない生徒もいた。分類においてはＫＪ法を用い，付箋紙を配布しワークシートに貼らせたことで，3つの項目において傾向が絞られた上で，話し合いをする様子が見られた。発表の場面では，話型を示したことでスムーズに発表していたが，3つの項目の全てを発表させたため，時間が足りなくなり全てのグループで発表することができなかった。

図⑥



4●おわりに

音楽という目に見えないものを，言葉で表現するのはとても難しい。少ない授業時間の中で，知識的なことを教える時間はなかなか取れないが，感性を豊かにするために，音楽の基本的な知識や楽器の名前，楽典などを指導する時間を設定し，より深く鑑賞したり，その表現の幅を拡げたりするような授業の工夫も，今後研究していきたい。

管弦楽における管楽器・打楽器の魅力
―「展覧会の絵」に登場する楽器たち

青森県八戸市立中沢中学校　最上哲宏

管弦楽における管楽器や打楽器の効果といえば，やはり音色にあります。弦楽器群は，楽器の構造が似ているため，ほぼ統一された音色であるのに対して，金管，木管，打楽器は，楽器の発音のメカニズムが異なることから，それぞれが個性的な音色を持っています。また，管楽器においては，それぞれの楽器の音色をブレンドし，まったく新しい音色を生み出すこともできるのです。例えば，学校教材ではありませんが，ヴェルディの歌劇「運命の力」序曲の冒頭から二つ目の旋律はフルート，オーボエ，クラリネットのユニゾンで演奏されます。この部分こそ，三つの楽器の音色をブレンドし，何とも言えない味のある音色で演奏される部分。管楽器の音色のブレンドでまったく異なる音色を生み出す最たる部分といえるでしょう。

さて，管弦楽の色彩感という点で，教材にある鑑賞曲のなかで興味深く魅力的なものといえば，やはり，オーケストレーションの神様とまで称されるモーリス・ラヴェルの作品だと思います。ラヴェルの管弦楽曲は，弦楽器群とのバランスをとりながら，管楽器や打楽器の性能を可能な限り引き出しています。従ってどの曲も大変色彩的に豊かであるわけです。特に，ムソルグスキーの組曲「展覧会の絵」は，曲の表現内容が，ピアノという楽器の可能性を超えているものであると言われていますから，ラヴェルの，管・打楽器を巧に使用したオーケストレーションにより，色彩感にあふれ，原曲のイメージをこれでもかと言うほど強く，聴く者の耳に訴えかけてくる作品となっています。

ラヴェルの編曲は，10 枚の絵をプロムナードとその変奏 5 曲（5 曲目はプロムナードではなく死者の言葉による死者との対話とされている。）がつなぐという関係で成り立っています。では，それぞれの曲の中で，管楽器，打楽器が曲の持つ意味合いの中で，どのように用いられ，表現効果を上げているか，その魅力等について顕著なものを述べていくことにします。

プロムナード

プロムナードの意味は散歩，歩くという意味ですから，一つの絵から次の絵までのほんの少しの歩みと解釈すればいいのですが，ムソルグスキー自身はインテルメッツォとして考えたようです。それぞれのプロムナードは単なる絵と絵のつなぎではなく，前後の絵と深く関わり合っているため，独立して演奏されることはありません。しかし，すべてのプロムナードは，冒頭の曲の変奏として作られており，それぞれ個性的な演奏形態が用いられていますから，プロムナードだけを拾い聴きしてみるのもおもしろいです。各楽器の特徴をはっきりと聴き取ることができると思います。どうしてこのプロムナードの調性と楽器の配列がこうなったのかということを考えながら，前後の絵の曲を聴くのも一つの方法ではないでしょうか。

さて，まずは冒頭のプロムナードですが，トランペットの独奏による主

題の提示の後，金管楽器群のアンサンブルによって反復－展開され，その後弦楽器も加わっていく形です。特筆すべきは，19 世紀後半まで管弦楽曲においてトランペットが旋律を演奏するということがほとんどなかったことです。（有鍵トランペットは旋律を演奏できましたが，性能的に不十分でした。）これは楽器の性能の問題にも起因することですが，近代に至るまでトランペットの演奏といえばファンファーレ的な倍音での「タッタカター」がほとんどでした。スメタナの「ブルタバ」でも旋律的な演奏はなく，みんなファンファーレ的な扱いになっています。楽器の性能の向上（バルブシステム発明）と普及により，トランペットも木管楽器と同様に自由に旋律を演奏することが可能になったと言えるでしょう。軽いビブラートをつけながらのトランペットの柔らかな演奏は実に美しいものですし，金管楽器群の重厚なハーモニーも見逃せませんね。

冒頭のプロムナードが金管楽器の主導だったのに対し，グノームの後のプロムナードは，ホルンと木管楽器群，いわゆる木管アンサンブルの形をとっています。ホルンの音域は大変広く，実用域は実音で下第一線のＦを基準に，上に２オクターヴ，下に１オクターヴ程度ですが，実際はもっと広いレンジで演奏することができます。その中音域はユーフォニアムのようでもあり，低音はテューバのようでもあります。柔らかな音色，鋭い音色と，音質についても様々に変化させることができるなど，かなり守備範囲が広い楽器です。ですから，金管楽器でありながら，木管五重奏の編成にも加えられるわけですね。後で楽譜を見て驚いたのですが，実際この曲を何気なく聞いているときは，ユーフォニアムで演奏しているのだろうと思っていました。その後のプロムナードも調性や演奏形態を対比的に変化させて演奏されます。金管楽器の重厚さと，柔らかで繊細に表現ができる木管楽器を比べながら聴いても楽しいですね。

第１曲　グノーム

この曲は構成や楽器の使い方が，的確に標題内容を表現しているように思います。組曲の中でも秀逸な作品の一つではないでしょうか。

グノームとは，ロシアの伝説に出てくるこびと妖精で，地の底に住み，奇妙な格好でどたばたと足音を立てながら歩いたり，ちょこまかと動きまわったりしているとも言われています。地中の宝を守る役目を持っているのですが，大変臆病者で，顔を合わせると慌てて隠れてしまうとのことです。

グノームのキャラクターをイメージしながらこの曲を聴いていくと，最初の動機はグノームが走り回り，急に立ち止まって辺りを見回している情景が湧いてきます。この曲では，トランペット，ホルンやテューバのミュートを使った音色の変化や，ホルンがベルの中に手を深く差し込んで歪な音を出すゲシュトップフトという奏法が，縁の下の力持ち的な役割で，曲全体の雰囲気を醸し出しています。また，グノームの奇妙な歩き回りの表現に一役買っているのはシロフォンです。木管楽器の動きに合わせた堅い響きは，いかにもぴょこたんぴょこたんと奇妙な格好で歩いているグノームを思わせます。曲の終わり近く（100 小節あたり）になって，グノームは誰かとバッタリと会ったのでしょうか。ミュートをつけた金管楽器群の歪なハーモニーにラチェットのガリガリ音が加わり，まるでネコが敵を「シャー！」と威嚇するかのよ

うな音に続き，木管と弦楽器の速い動きに小太鼓の８分音符の刻みがバタバタが加わって，走り去っていくグノームを表現しています。この曲は，どの楽器がどうのということよりも，それぞれの楽器の性能を的確に生かすことで曲全体を構築されているようですね。曲の情景をイメージしながら聴く教材としては最適といえるでしょう。おすすめの一品です！

第２曲　古城

弦楽器の低音のオルゲルプンクトにアルトサクソフォンの独奏で主題を奏でるものです。ビロードのような　柔らかなサクソフォンの音色が何とも言えない哀愁を感じさせます。抑圧されたスコモローヒ（旅芸人）が悲哀を込めて歌っているようにも聞こえます。ちなみにリムスキーコルサコフの弟子であるトゥシマロフの編曲ではイングリッシュホルン使われているそうです。この曲の最後はサクソフォンの長い音（実音Ａ♭）のフェルマータで終わるのですが，フォルテ，デクレシェンドと perdendosi（消えていくように）が記されています。奏法としては極めて単純なのですが，うまく演奏するためにはかなりの演奏力が必要で，演奏者の力量が試される部分といえるでしょう。この部分も様々な演奏を比べてみるとおもしろいです。

第４曲　ビドロ

弦楽器の低音と，ファゴット，コントラファゴットの三度の音形反復に乗せて，テューバの独奏重々しい主題を提示します。テューバというと低音の金管楽器ですが，実際に使用されるのはユーフォニアムです。ですから，本文中はテューバではなくユーフォニアムと表記します。テナーテューバという言い方をする場合もありますが，楽器としてはテナーテューバは存在しないんだそうで・・・理屈はともかく，この曲は，地平線の彼方から牛車が近づきふたたび遠ざかる様子を表したものです。

曲は最初ピアニッシモに始まり，牛車が近づくと共にクレシェンドしていきます。ユーフォニアムの燻し銀のような音色での独奏から，弦楽器と木管の合奏になります。牛の足音の表現なのでしょうか，途中からバスドラムが重々しく響いてきます。クレシェンドは更につづきます。管弦楽での打楽器は，ティンパニーがよく使われますが，バスドラムがドスンドスンと連続して鳴る曲はあまり多くありません。最も近くを通るテュッティの部分ではバスドラムの４分音符のリズムに加えて，ティンパニーの８分音符のリズムと，重い牛車の車輪が地面の砂利を撥ね飛ばすような，スネアドラムの粗めのロールが鳴り響きます。そして目の前を通り過ぎ遠ざかっていく部分で，再びユーフォニアムの独奏となり消えていくのです。巧みな打楽器の使用で，見事に動きを表現していると思います。ユーフォニアムの演奏も，かなりの高音で，しかもピアニッシモが求められますので，演奏はなかなか困難な曲でもあります。

第７曲　リモージュ　－　市場

この曲はなんと言ってもホルンの演奏テクニックが光る曲です。ホルンを演奏する人ならおわかりでしょうが，曲の最後４小節（meno mosso）で 16 分音符を更にダブルタンギングで刻む（都合 32 分音符になる）部分は，演奏するだけでも大変であるのに，

刻みの得意な弦楽器と合わせ演奏することは，至難の業といっていいでしょう。

第 10 曲　キエフの大門

この曲は，あるテレビ番組でも使われているものですから，大変ポピュラーになってしまいました。子どもたちに聞いても，知っている子がほとんどですが，曲の中身についてはやはり知られておりません。

この曲は組曲の最後を締めくくるものですから，管・弦・打，楽器の特徴を余すところなく取り入れてあります。オールスターキャストという感じですね。楽譜にも Allegro alla breve ,Maestoso Con grandezza　と記されているとおり，とにかくめちゃくちゃに壮大です。曲の構成もラヴェルの編曲によって，更に明確に聞いてとれるものとなっています。ガルトマン（ハルトマン）が描いた絵では，大きな門と教会の聖堂が合体したような，ある意味奇妙な絵でしたが，冒頭の金管楽器群が奏でる主題（個人的に門の主題とします。）とそれに続くテュッテイが，壮大な門を表現しているように思えます。金管楽器群の華麗で重厚なハーモニーにティンパニーとバスドラムの「ドスン」が，いかにも門の美しさと壮大さにマッチしています。テュッテイにより主題が繰り返された後，曲はいきなりピアノに転じます。（聖堂の主題とします。）それぞれ二本のクラリネットとファゴットによる四重奏になりますが，楽譜には senza espress.，それまでの壮大さをまったく打ち消しています。隣の聖堂での祈りなのでしょう。聖堂内の静けさ，素朴さ，純粋な祈りを表現しているようです。クラリネットとファゴットの中音域の持ち味を遺憾なく発揮しています。曲はその後，門の主題と，聖堂の主題を繰り返しますが，まるで絵を見る者の目の動きを追っているようにも思えますね。続く場面は，外側の離れた場所から見る聖堂を思わせます。朝もやに見え隠れする姿なのでしょうか，ホルンとテューバ，ハープの奏でるハーモニーに，鐘（Campane）と銅鑼（Tam-tam）が加わり，暗く怪しげな雰囲気を出しています。その部分が次第にクレシェンドして，トランペットとフルート，オーボエ，高音域のクラリネットに加え，グロッケン，ハープも加わり，煌びやかに装飾されたプロムナードの主題が現れます。「華やかさを感じさせる音質は，これらの楽器をこのように使えば出せるのです。」とラヴェル先生が言っておられるような，楽器性能の引き出し方の，教科書みたいな部分だと思います。この後は門の主題を拡大し，鐘，銅鑼，シンバルで教会の雰囲気を加えながら，曲の終わりにかけて sempre maestoso，フォルティッシモでじわじわと進み，最高潮の興奮の中で，壮大に曲を閉じます。

さて，これまで展覧会の絵の魅力的な部分について述べさせていただきましたが，これはほんの一部分です。まだまだ，他の曲にも魅力的な部分はたくさんあります。あとは，読者の皆さんでさがしてみていただければと思います。

しかし，この曲を聴いていると，自分の頭の中に思い浮かぶのは，ガルトマンが描いた絵ではなく，ガルトマンの絵にヒントを得た，動画なんです。まるで，ある魔法使いの映画に出てくる絵みたいに，額の中で映像が動いているんです。音を聴いて，アニメーションを想像するというのは本当に楽しいものですね。

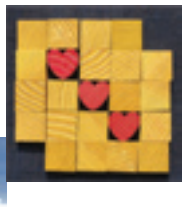
歌とピアノのための小品集

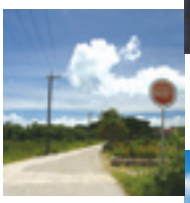
風と恋人

西澤 健治

ピアノ伴奏譜・CD付き
定価2,000円（本体1,905円＋税）

作曲家，編曲家，ピアニストにしてフォトグラファーの著者が，自己のイメージを曲と写真の両面から表現した作品集。その作品の数々は斬新なアイディアと豊かな感性に満ちあふれている。





■掲載曲

朝の光がまぶしい時は／風にのって／みんな友だち／生命が羽ばたくとき／ハロー・シャイニング　ブルー／友達がいる／約束の言葉はどうして／いのち／あきのまほう／そよぐ風の中で／ふしぎ／魔法使いのマージさん／Singing with the Wind／さようならの向こう　全14曲

好評発売中！ 楽譜・CDは全国の楽器店・書店でお求めになれます。

☆ご注文のお問い合わせは…　TEL　03－3238－6908／FAX 03－3238－6999
URL　http://www.kyoiku-shuppan.co.jp/

中学・高校音楽通信　**Spire_M**〔2010年 秋号〕　2010年10月1日　発行

編　集：教育出版株式会社編集局　　発　行：教育出版株式会社　代表者：小林一光
印　刷：大日本印刷株式会社　　発行所：**教育出版株式会社**
〒101-0051　東京都千代田区神田神保町2-10　　電話　03-3238-6864（お問い合わせ）
URL　http://www.kyoiku-shuppan.co.jp

地球となかよし　教育出版

なかよし宣言

わたしたちをとりまく自然や社会は，科学技術の進展や国際化，情報化，高齢化などによって，今，大きく変わろうとしています。このような社会の変化の中で，人間や地球上のあらゆる命がのびのびと生きていくためには，人や自然を大切にしながら，共に生きていこうとする優しく大きな心をもつことが求められています。

わたしたちは，この理念を「地球となかよし」というコンセプトワードに込め，社会のさまざまな場面で人間の成長に貢献していきます。

北海道支社　〒060-0003 札幌市中央区北三条西3-1-44 ヒューリック札幌ビル6F
TEL：011-231-3445　FAX：011-231-3509

函館営業所　〒040-0011 函館市本町6-7 函館第一生命ビルディング3F
TEL：0138-51-0886　FAX：0138-31-0198

東北支社　〒980-0014 仙台市青葉区本町1-14-18 ライオンズプラザ本町ビル7F
TEL：022-227-0391　FAX：022-227-0395

中部支社　〒460-0011 名古屋市中区大須4-10-40 カジウラテックスビル5F
TEL：052-262-0821　FAX：052-262-0825

関西支社　〒541-0056 大阪市中央区久太郎町1-6-27 ヨシカワビル7F
TEL：06-6261-9221　FAX：06-6261-9401

中国支社　〒730-0051 広島市中区大手町3-7-2 あいおいニッセイ同和損保広島大手町ビル5F
TEL：082-249-6033　FAX：082-249-6040

四国支社　〒790-0004 松山市大街道3-6-1 岡崎産業ビル5F
TEL：089-943-7193　FAX：089-943-7134

九州支社　〒810-0001 福岡市中央区天神2-8-49 ヒューリック福岡ビル8F
TEL：092-781-2861　FAX：092-781-2863

沖縄営業所　〒901-0155 那覇市金城3-8-9 一粒ビル3F
TEL：098-859-1411　FAX：098-859-1411